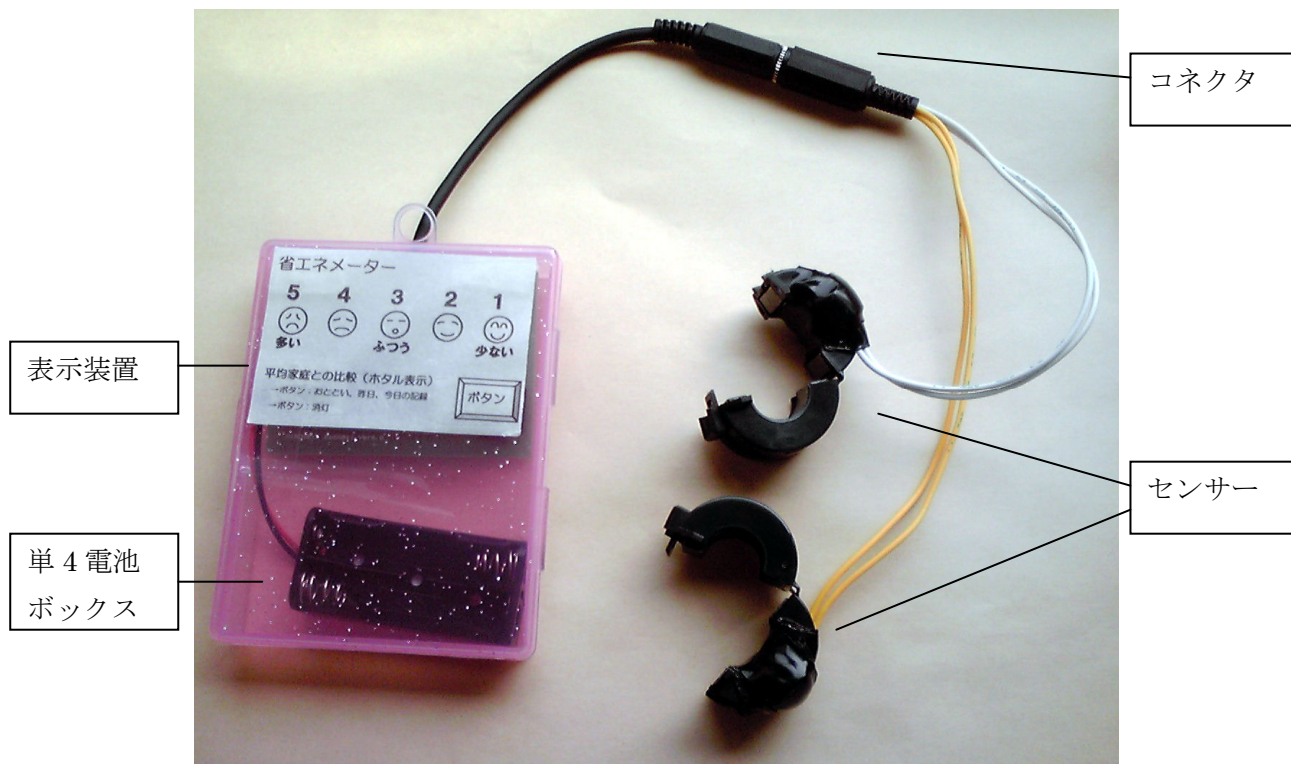


# 「省エネメーター」の使い方

2010年8月13日

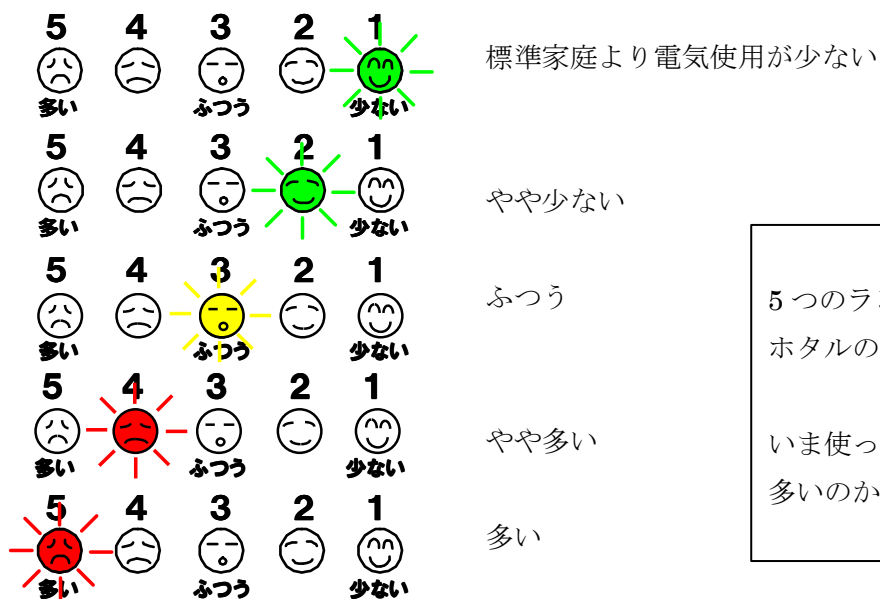


## ■どれだけ電気を使っている？ 「省エネメーター」の表示（ホタル表示）

いまどれだけ電気を使っているか、標準家庭と比較して5段階の「顔マーク」で表示します。電気の消費が多ければ「赤い顔」のランプが、少なければ「緑の顔」のランプがホタルのようにゆっくり点滅します。

また、最大60日分の電気使用データが記録されます。

どれくらい電気を使っているのか自分でチェックして、省エネを試してみる、そんな装置です。



5つのランプのうち1つがホタルのように点滅をして、いま使っている電気が多いのか少ないのかを表示します。

## ■「省エネメーター」の設置

### 注意事項

- 1) 家庭の分電盤（ブレーカーボックス）を開けて設置します。分電盤には高い電圧がきていますので、ねじなど、金属がむきだしの部分などにさわらないように気を付けてください。感電をする危険があります。
- 2) 屋外には設置しないでください。

### 1) 分電盤のフタをあけます。

分電盤のプラスチックケースは、爪で止めてあるだけですので、ケース下のくぼみ 2ヶ所を持ち上げる形で開けることができます。



玄関・洗面所・廊下など 1ヶ所にあります

左右のくぼみに指を入れ、同時に持ち上げます

### 2) メインブレーカーより電気器具側の配線に、クランプメータをとりつけます。

家庭での電気配線は 2本のタイプと、3本のタイプがあり、つけ方が異なります。

#### ○2本の場合：

- ・白、黒線のどちらか 1本にクランプセンサを 1つとりつけてください。
- ・クランプセンサが 1つ余りますが、接続しなくても構いません。

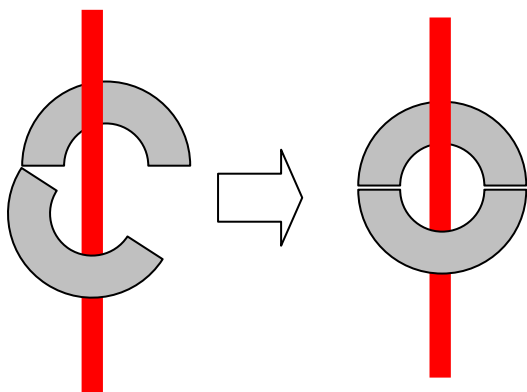
#### ○3本の場合：

- ・白、黒、赤の 3種類の太い線があります。このうち、黒と赤にクランプセンサを 1つずつとりつけてください。白線にはつける必要がありません。



分電盤をあけたところ（例）です。家の電気はすべてここを通ります。

赤丸の中に、「赤」「白」「黒」の線があるので、このうち「赤」と「黒」にクランプセンサをつけます。



クランプセンサは、ドーナッツを2つに割った形のもので2つつながっています。ドーナッツの輪の中に電線を通すように、クランプセンサではさみこんでください。

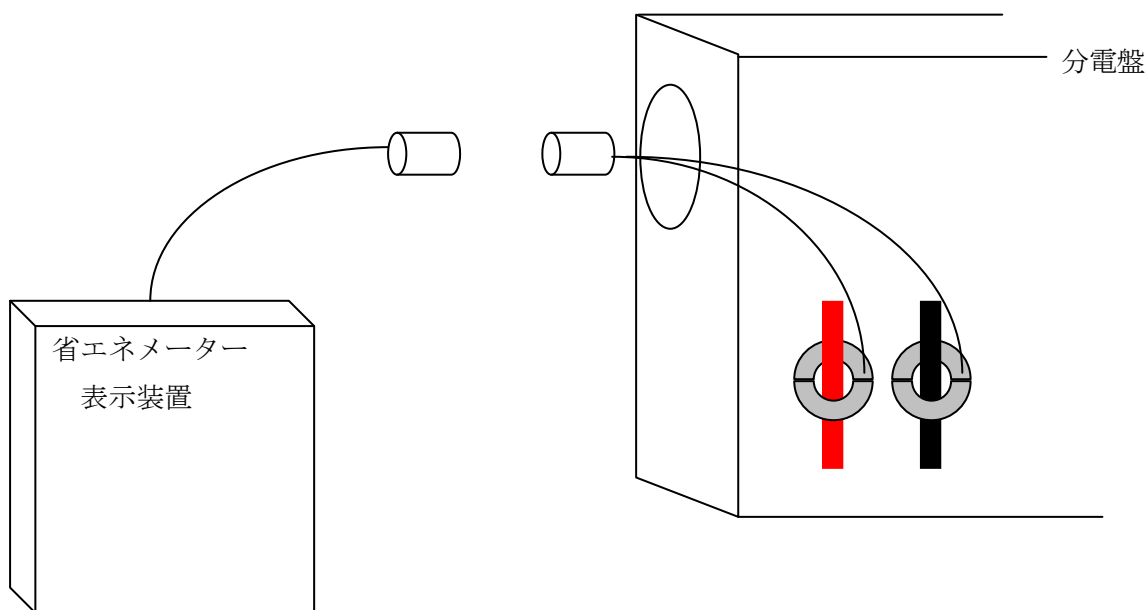
つめが引っかかって、引っ張っただけでは外れないことを確認してください。

センサを外すときには、爪を広げてから外してください。

### 3) 接続コネクタを外し、表示部分だけ表に出てくるようにして、分電盤のふたを閉めます。

分電盤に穴が空いている場合には、表示部分のケーブルを穴から分電盤の中に入れて、接続をすることができます。穴が空いていない場合には、メインブレーカースイッチとふたのすきまなどから、線を出すこともできます。

なるべく、ふだんの生活でもよく見えるように設置してください。

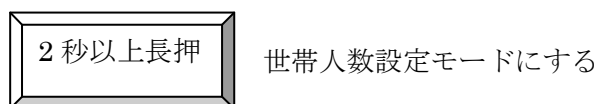


#### ■「省エネメーター」の主な機能

- ・ 60A までの分電盤に設置し、家庭の消費電力を計測して記録することができます。
- ・ 世帯人数設定をして、標準より多いか少ないかを 5 段階で表示できます。
- ・ 2 秒ごとに消費電力を測定し、リアルタイム表示を行います。
- ・ 1 日ごと過去 3 日分データの簡易呼出機能があります。
- ・ 過去 60 日分のデータ (1 日ごと)、過去 10 日分 (1 時間ごと) を記録できます。
- ・ 時間帯ごとの平均消費電力を記録する機能があります。
- ・ 単 4 乾電池 2 個で 2 ヶ月以上稼働します。
- ・ 測定データは 20W 単位で記録されます。

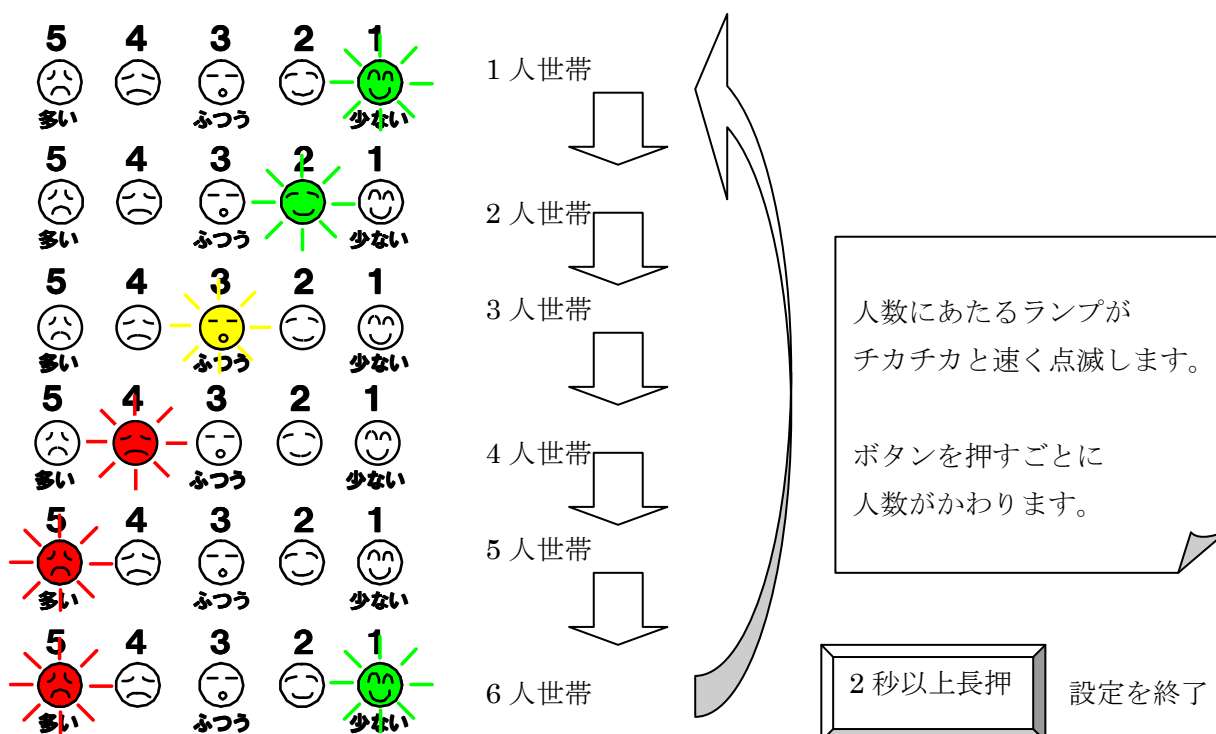
## ■省エネナビの基本設定：世帯人数の設定

世帯人数ごとに標準の電気使用量が異なります。まず自分の家族人数を設定してみてください。  
通常のホテル表示状態で、ボタンを2秒以上押します。すると、点滅が「チカチカ」と速くなります。この状態で世帯人数の設定をすることができます。



ここでボタンを押すと、3 (3人) →4 (4人) →5 (5人) →5と1 (6人) →1 (1人) →2 (2人) →3 (3人) と表示されるランプが移動します。

設定する人数で、ボタンを2秒以上押すと、世帯人数がセットされ、比較表示モードに戻ります。



※人数設定を変えても、記録されるデータに違いはありません。比較基準を変えるだけです。

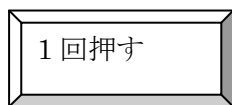
※初期設定は3人になっています。

※より省エネに取り組みたい方は、「1人世帯レベル」など、より少ない世帯人数家庭の値でチャレンジしてみてください。

※長押しせずに、25秒以上放置しても同様に値がセットされ元の表示に戻ります。

## ■過去データの表示

過去データのうち、1日ごとに3日分のデータ呼び出して表示することができます。



過去データの表示

標準のホタル表示状態で、ボタンを押すと、3日分の表示モードに移ります。約1秒ごとに、「おとといの電力消費量」「昨日の電力消費量」「今日の電力消費量」を5段階で繰り返し表示します。

表示パターン（全体で4秒間） ■表示 —全消灯



おととい      昨日      今日

過去のデータを表示している状態からはボタンを2回押すか、25秒以上放置することで、元のホタル表示に戻ります。

## ■表示しない

LED表示を止めると、測定できる寿命が長くなります。



過去データの表示

+



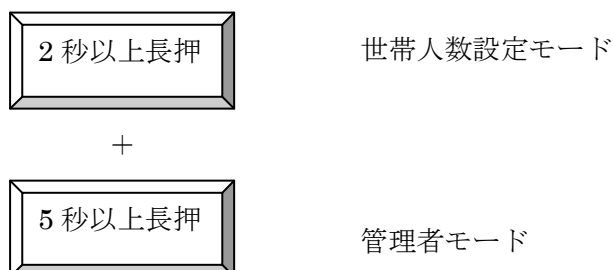
表示しない

表示しない状態からはボタンを1回押すと、ホタル表示に戻ります。

以下の機能はなくても使うことができます。必要に応じてご利用下さい。

## ■管理者モード

時刻設定や過去の記録の表示などができるようになっていますが、通常は使いません。管理者モードに移るためには、世帯人数設定の状態から、5秒以上ボタンを長押しします。



世帯人数設定のために2秒後に一度LEDが全て点きますが、このときにあわてて離さずに長押しを続けてください。管理メニューに入るときには、全てのLEDが2回点滅します。

## ■管理メニュー

△表示：

1番の緑LEDが常に点灯した状態となり、これが管理者メニューのモードです。メニューはそれ以外の4つのLEDの状態を表示します。

△メニュー（番号は点灯しているLEDの番号）

- 2： 年設定（0-20） 西暦の下2桁
- 3： 月設定（1-12）月
- 4： 日設定（1-31）日
- 5： 時刻設定（0-23）時
- 2+3： 周波数設定
- 2+4： （予約）
- 2+5： 全データ消去

△操作：

- クリック：選択中のメニューを変更します
- 長押し：メニューを実行します
- 放置：25秒で比較表示モードに移動します

## ■管理操作：年設定

西暦の年を設定します。

△表示：

5ビットで西暦の下2桁、0（2000年）～20（2020年）を選択示します。20を超えるとふたたび1からはじまります。

△操作：

クリック：年を1時間加えます

#### ■管理操作:月設定

月を設定します。

△表示：

5ビットで1月～12月を選択示します。12を超えると、ふたたび1月からカウントします。

操作：

クリック：月を1ヶ月加えます

#### ■管理操作:日設定

日を設定します。

△表示：

5ビットで1日～31日を選択として示します。

△操作：

クリック：日を1日加えます

#### ■管理操作:時刻設定

時刻の設定をします。

△表示：

一番左のLEDが消えていると午前、点いていると午後です。右の4ビットで0時～11時を示します。

△操作：

クリック：時刻を1時間加えます

#### ■管理者:周波数設定

東日本では50Hz、西日本では60Hzの周波数になり、設定を変更する必要があります。初期設定は60Hzになっています。

△表示：

ランプ5のみ：50Hzの設定です

ランプ5+1：60Hzの設定です。

△操作：

ボタンを押すと、50Hz、60Hzが切り替わります。

#### ■管理者:全データ消去

EPP-ROMに記録されたデータを消去します。

消去後、自動的に記録モードに移ります。

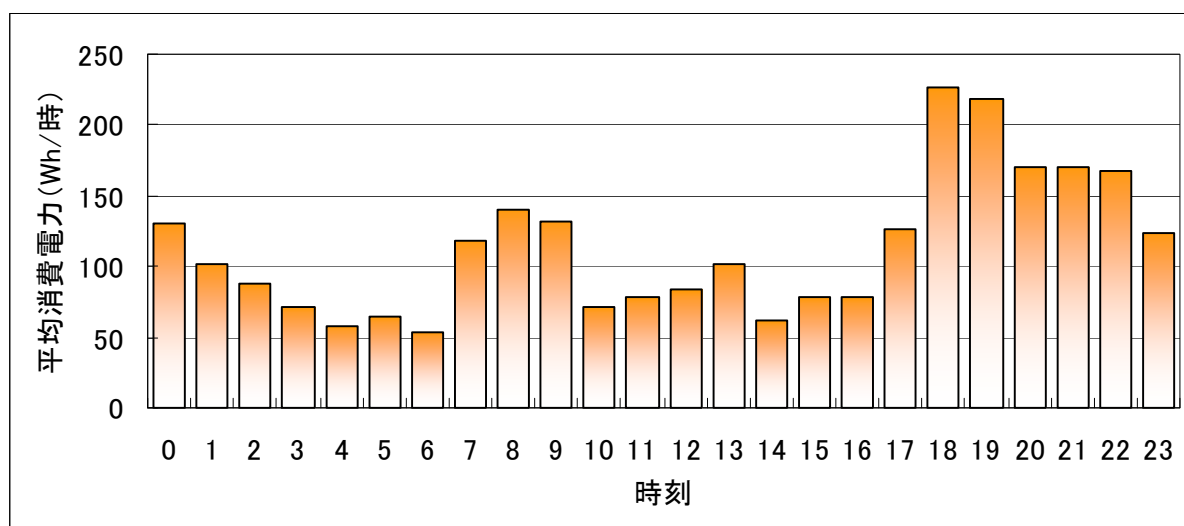
## ■参考:基準となる消費電力

	月消費電力	時間平均	比較基準消費電力(W)			
	(kWh/月)	(W)	0.4 倍値	0.8 倍値	1.2 倍値	2.0 倍値
1 人	265	360	140	300	440	740
2 人	389	540	220	440	640	1,080
3 人	463	640	260	520	780	1,280
4 人	510	700	280	560	840	1,420
5 人	589	820	320	660	980	1,640
6 人	704	980	400	780	1,180	1,960

家計調査等の資料より、世帯人数別の1ヶ月あたりの消費電力量を算出した。これを平均消費電力に換算し、その値の0.4倍より小さい場合を「少ない」、0.4~0.8倍を「やや少ない」、0.8~1.2倍を「ふつう」、1.2~2.0倍を「やや多い」、2.0倍以上を「多い」と5段階に切り分けています。

## ■記録データの分析サンプル

調査期間を通じて、各時刻にどの程度の電気を消費したのか、電気の使用パターンを知ることができます。夜明け前と昼間に消費電力が少なく、夕方と朝に電気の消費が多いことがわかります。



また、60日分の1日ごとの記録もされていますので、呼び出してグラフ表示することができます。